

# 令和4年三重県議会定例会 予算決算常任委員会

## 提出資料

	頁
○令和3年度マネジメントシート	
1 こころの医療センター院長	1
2 一志病院院長	3
3 病院事業庁長	5
[参考]	
○令和4年度マネジメントシート	
1 こころの医療センター院長	7
2 一志病院院長	9
3 病院事業庁長	11
○マネジメントシートの構成	13

令和4年10月3日  
病院事業庁

病院名	こころの医療センター					
ビジョン	県民の皆さんのより良いこころの健康をめざし、精神科疾患があっても地域で安心して暮らせるよう、医療のサービスを提供します。					
経営方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神科の医療倫理を遵守し、患者や家族の皆さんの視点に立った良質で満足度の高い医療サービスを提供しながら、健全な病院運営を進めます。</li> <li>政策的医療や専門的医療、災害医療の取組において、県内の精神科医療における中核病院としての役割を担い、県の精神科医療をリードします。</li> </ul>					
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	R1 実績値	R2 実績値
顧客の 視点		◎重点取組事項	満足度の高い医療の提供	患者満足度	83.0%	86.2%
		早期社会復帰の推進	新患者の寛解率の向上	新患者の寛解率	68.6%	66.4%
			精神科救急・急性期医療の推進	精神科救急患者受入件数	186件	154件
			地域生活支援体制の充実	訪問看護延べ患者数	4,784人	4,161人
		社会ニーズに応じる精神科専門医療の提供	入院後1年以内の患者退院率	96.1%	93.8%	
			障害福祉サービス事業所等との連携取組件数	6件	7件	
			医療機関訪問件数	220件	3件	
			精神科早期介入の推進 県民ニーズの高い精神科医療の取組	精神科早期介入対応件数	160件	173件
		こころしつとこセミナー開催件数	48件	28件		
		財務の 視点		◎重点取組事項	臨床・経営指標に基づいた病院運営の確立	臨床・経営指標の追加・充実
医業収支改善	医業収支比率の改善			医業収支比率	67.8%	58.8%
	経常収支比率			97.7%	110.6%	
	アルコール依存症入院患者数			35.1人/日	25.9人/日	
	認知症入院患者数			37.1人/日	28.7人/日	
	1日平均入院患者数			264.3人/日	222.8人/日	
	1日平均外来患者数			215.8人/日	178.5人/日	
	内部プロセスの 視点				◎重点取組事項	経営改善の方向性決定
医療体制の構築		常時急性期患者受入体制の確立	措置鑑定対応件数		55件	80件
		医師の充足	医師充足率		94.9%	84.2%
		看護師の充足	看護師充足率		100%	100%
		災害時医療体制の確立に向けた取組	BCPに基づく図上演習・訓練		-	全面改訂
精神科倫理に則った病院運営		医療安全感染管理の徹底	危機管理研修等参加率		94.7%	99.6%
学習と成長の 視点		◎重点取組事項	人材育成の充実取組	倫理委員会(研修)開催数	2回	2回
		専門性の向上	専門能力を身につけた職員の増加	人材育成研修開催数	5回	5回
			三重県の精神科をリードする取組	精神科医療スタッフの育成	研修医・看護実習等受入延べ人数	2,292人
		風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	-	71.1%

R3 目標値	R3 実績値	アクションプラン	実績評価	次年度への課題
94.3%	87.4%	・外来案内表示システムの導入、業務効率化・経費削減タスクフォースによる改善の取組	業務効率化・経費削減タスクフォースでの取組などにより3年連続で数値が向上したが、目標には達しなかった。	引き続きタスクフォースにより、満足度向上につながる患者ニーズの把握と対策を行う
60.0%	63.8%	・早期、急性期医療の充実 ・地域生活支援体制の推進	目標を達成した。	引き続き、早期、急性期医療の充実を図りながら寛解率の向上を図っていく
230件	178件	・精神科救急受入体制の確保	積極的な受入れの努力はしているが、依頼件数が減少しており、昨年度より件数は増えたものの目標は達成できなかった。	引き続き、三重県精神科救急医療システムの支援病院として受け入れ体制を維持していく
12,500人	9,911人	・地域定着支援タスクフォースによる改善の取組	感染対策を工夫しながら実施したが、新型コロナウイルスの感染拡大により、1年の過半はショートケアのみの運用となり、昨年度より数は増えたものの、目標は達成できなかった。	今後の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、タスクフォースなどにより、ニーズに応えられるようなプログラムを充実するよう取組を進める
5,000人	4,231人	・地域定着支援タスクフォースによる改善の取組	コロナ禍の中での訪問看護となっており、目標は達成できなかった。	今後の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、タスクフォースでの取組を進める
95.0%	100.0%	・地域の関係施設との連携及び日中活動支援等の充実	基準となる6月の新規入院患者が全員退院し、目標を達成した。	患者が住み慣れた地域に移行できるよう、引き続き、多職種による支援や地域の福祉施設等との連携を進めていく
8件	8件	・地域連携ミーティングの開催及び協働事業の開催	コロナ禍ではあったが、予定通り取組を行うことができ、目標を達成できた。	タスクフォースでの取組を進め、引き続き地域の医療機関や福祉施設等の事業所との連携を深めていく
200件	203件	・地域医療機関への訪問 ・地域連携強化タスクフォースによる改善の取組	新型コロナウイルスの感染状況により訪問を中止していた時期もありましたが、感染が落ち着いた時期に訪問に取り組み、目標を達成した。	
200件	235件	・早期介入拠点(YMSC/MIE)の充実、ケースマネジメント体制の確立	毎月の相談件数が高い水準が続く、目標を達成した。	早期介入拠点(YMSC-MIE)の充実をはかり、引き続き、関係機関との連携を図りながら、早期介入に必要なとされるニーズの把握に努める
35件	35件	・精神科医療取組の広報・啓発等	新型コロナウイルスの感染状況により、開催中止となるセミナーもあったが、目標を達成した。	・Webでの開催の検討 ・感染防止対策を十分に講じたうえ、様々なニーズに対応できるようテーマを充実させる
充実	充実	・臨床・経営指標の追加等、データ分析	経営会議等の院内会議の場や院内供覧により、自院や他病院の各種指標を示すことで、職員の意識を高めた。	引き続き、臨床・経営指標に基づいた病院運営を進めていく
63.4%	55.2%		新型コロナウイルス感染症の影響及び新患の減少により、一人当たりの単価は増加したものの、医療収支比率の目標は達成できなかった。経常収支比率は繰入金金の増により目標を上回った。	
102.6%	127.5%	・精神科専門治療の充実	入院加療を希望する患者が減っているため、入院患者数が減少した。	・新型コロナウイルス感染症の影響を注視しつつ、引き続き経営改善プロジェクトの取組を推進していく
30人/日	19.4人/日	・精神科特定入院料の算定	脳神経内科医が着任し、今年度に入ってから患者数は増加しているが、目標は達成できなかった。	・病棟連携を強化し、患者の受入れの強化をはかる
40人/日	26.4人/日	・病棟機能の明確化と病棟間の連携	新型コロナウイルス感染症の影響により、入院患者数は減少したままとっている。	
250人/日	189.9人/日	・飲酒運転違反者に対する診察	通院間隔の長期化及び医師数の減により、目標を達成できなかったが、昨年度からは増加している。	
200人/日	187.5人/日	・認知症相談、啓発研修の実施		
検討・実施	検討・実施	・院内会議での検討	令和元年度のタスクフォースで決定した病棟改修が完成した。院内会議で病棟再編の今後のあり方について検討を行い、令和4年度予算に東1病棟の改修工事の設計費を計上した。	東1病棟の改修の設計を行うとともに、各病棟の役割の明確化を経営会議等で検討していく
50件	77件	・県健康推進課・保健所等との連携、院内救急体制整備	新型コロナウイルスを疑われる患者を受けいれていることもあり、目標を達成した。	医療圏内他医療機関及び県内の措置件数の動向を注視していく必要がある
100%	79.8%	研修や資格取得へのバックアップ体制を強化し医師に魅力ある病院づくりの取組	昨年度より減少しているが、専門医研修プログラムの運用開始により、令和3年4月から専攻医を3名確保し、うち2名が10月から着任している。	・引き続き働き方改革の動向も踏まえながら、勤務環境を整備するなど、魅力ある病院づくりの取組を行う
100%	100%	育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど魅力のある病院づくりへの取組	ホームページの充実をはかり、看護師確保に努め、目標を達成した。	・募集に係るホームページの改善を行う
開催	開催	震災用、感染症用のBCPマニュアルの全面改訂を受け、その実効性を高める取組	11月25日に感染症に係る対応について実施済。感染症に係る部分は実際に合わせ改定した。	引き続き、地震時の対応についての訓練の実施を検討していく
93%	99.7%	・医療安全研修の複数回実施、研修予定の早期周知	e-ラーニング主体で行い、未受講者には声掛けを行うなどにより目標を達成しました。	未受講者への積極的な声掛けを行っていく
2回	2回	・職員の倫理意識向上のための研修の実施 ・職員表彰制度の継続実施	感染防止対策を徹底のうえ、開催し、目標を達成した。	・引き続き、医療倫理や、職員のスキル向上につながる研修を実施し、人材を育成していく
5回	6回	・職員のスキルアップのための体系的な院内研修の実施	感染防止対策を徹底のうえ開催し、目標を達成した。また集合研修を録画し、参加できなかった人も閲覧可能とする取組も行っている。	・感染対策の観点からWEB会議、e-ラーニングの活用する
2,200人	1,835人	・院内受入体制の整備 ・研修プログラムの見直し、充実 ・看護大学との連携による臨床能力の向上	当院への実習をとりやめた学校もあり、また、臨床研修医の受入れも少なく、目標を達成できなかった。	県内の精神科医療水準の向上のため、実習生等を積極的に受入れていく
-	-	・業務効率化・経費削減タスクフォースによる取組(令和3年度は職員満足度アンケートを実施しない年なので、目標値は設定しない)		タスクフォースによる多職種連携の取組を進めていく

令和3年度 一志病院長マネジメントシート

区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	R1 実績値	R2 実績値
病院名	一志病院					
ビジョン	安心してこの地域で生活し続けられる医療を提供し、全国の医療過疎を解決するモデルになります。					
経営方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆるニーズに対応するプライマリ・ケアを実践します。</li> <li>プライマリ・ケアを担う人材を育成します。</li> <li>プライマリ・ケアに関するエビデンスを創出します。</li> <li>地域住民が信頼し、自慢できる病院をめざします。</li> <li>職員の意欲と能力の向上に努めます。</li> <li>継続的な医療の提供のために経営の健全化に取り組みます。</li> </ul>					
顧客の視点	<p>県内への 医師等の定着</p> <p>全国的医療過疎を解決する病院のモデル</p> <p>プライマリ・ケアの実践</p> <p>県民の皆さんが信頼し、 自慢できる病院</p>	<p>プライマリ・ケアの実践 (全人的な医療サービスの提供)</p> <p>県民の皆さんが信頼し自慢できる病院 (顧客満足度の高い医療の実践)</p>	<p>かかりつけ患者の増加</p> <p>入院患者の増加</p>	<p>1日平均外来患者数</p> <p>1日平均入院患者数</p>	<p>79.0人/日</p> <p>37.1人/日</p>	<p>74.5人/日</p> <p>36.3人/日</p>
財務の視点	<p>経営の健全化</p>	経営の健全化	<p>収支の改善</p> <p>収益の確保</p>	<p>経常収支比率</p> <p>医療収支比率</p> <p>診療報酬検討会開催回数</p>	<p>117.6%</p> <p>78.9%</p> <p>12回</p>	<p>120.0%</p> <p>76.6%</p> <p>12回</p>
内部プロセスの視点	<p>地域に最適な医療体制づくり</p> <p>地域医療</p> <p>・包括的なケア ・多職種連携 ・住民参画型</p> <p>総合診療医</p> <p>教育</p> <p>研究</p> <p>・地域医療を担う人材の教育</p> <p>・家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究</p>	<p>地域に最適な医療体制の構築</p> <p>総合診療医を中心とした地域医療 (家庭医を中心とした地域医療)</p> <p>プライマリ・ケアを担う人材の育成 (地域医療を担う人材の教育)</p> <p>プライマリ・ケアに関するエビデンスの創出 (実証的かつ先進的な研究の実施)</p>	<p>医師の充足</p> <p>看護師の充足</p> <p>関係機関・地域住民との連携強化</p> <p>在宅療養の充実</p> <p>救急医療体制の確立</p> <p>予防医療の実践</p>	<p>医師充足率</p> <p>看護師充足率</p> <p>多職種連携による取組件数</p> <p>訪問診療、訪問看護等延べ患者数</p> <p>救急患者受入件数 (救急車搬送患者を含む)</p> <p>住民健診、人間ドック、がん検診受検者数</p> <p>初期研修医・医学生受入延べ人数</p> <p>看護実習生等受入延べ人数</p> <p>プライマリ・ケア研修会開催件数</p> <p>家庭医療等に関する研究の実施</p>	<p>76.8%</p> <p>100%</p> <p>30件</p> <p>4,571人</p> <p>1,271件</p> <p>1,470人</p> <p>460人</p> <p>341人</p> <p>2件</p> <p>43件</p>	<p>80.1%</p> <p>100%</p> <p>13件</p> <p>4,938人</p> <p>877件</p> <p>1,361人</p> <p>318人</p> <p>48人</p> <p>3件</p> <p>10件</p>
学習と成長の視点	<p>職員の意欲と能力の向上</p> <p>風通しの良い職場づくり</p>	<p>職員の意欲と能力の向上 (業務改善に向けた取組)</p> <p>風通しの良い職場づくり</p>	<p>医療従事者の能力向上</p> <p>危機管理対策の向上</p> <p>業務改善の推進</p> <p>職員満足度の向上</p>	<p>学会、研修、カンファレンス等の参加率</p> <p>危機管理研修等参加率</p> <p>夢プロジェクト開催回数</p> <p>職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合</p>	<p>100%</p> <p>100%</p> <p>12回</p> <p>-</p>	<p>100%</p> <p>100%</p> <p>12回</p> <p>74.6%</p>

R3 目標値	R3 実績値	アクションプラン	実績評価	次年度への課題
76.0人/日	71.1人/日	・総合診療医を中心とした外来診療体制の充実を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。	・訪問診療、訪問看護等の在宅療養支援の充実などに努めたものの、目標を達成することができなかった。	・引き続き、感染防止対策を講じながら、地域住民の幅広いニーズに対応し、プライマリ・ケアの実践により患者数の確保に取り組んでいく必要がある。
38.0人/日	34.8人/日	・診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。 ・病床状況、平均在院日数等の情報を関係セクションで共有し、目標達成に向けた対策を講ずる。	・地域の医療機関、保健・福祉機関等と連携し、入院患者の受入れに努めたものの、目標を達成することができなかった。	・地域の関係機関との連携により、引き続き、地域の入院ニーズに対応していく必要がある。
7件	3件	・へき地医療拠点病院として、診療圏外に所在する診療所へ代診医の派遣を行う。	・津市の診療所への医師派遣等を行ったものの、目標を達成することができなかった。	・県内の医療過疎地域を支援できるよう、引き続き代診医派遣等に取り組んでいく必要がある。
96.6%	95.0%	・患者様アンケートを通じて患者様のニーズを把握し、サービス改善に取り組む。 ・接遇研修を実施し、職員の接遇能力の向上を図る。 ・ワーキング活動等を通じた業務改善に取り組む。	・院内の環境改善を図るとともに、患者様の気持ちに寄り添った対応を心がけて取り組んだものの、目標を達成することができなかった。	・患者満足度の向上を図るため、引き続き、患者の皆さんの意見等を病院運営に生かしていく必要がある。
109.6%	117.3%	・入院、外来患者数増や単価増により収益増を図る。	・入院収益は前年度より減少したものの、外来収益の増加などにより、経常収支は9年連続で黒字を確保することができた。	・引き続き、患者数の確保や費用の縮減等に努めることで、黒字を維持していく必要がある。
73.3%	74.0%	・予防医療受診者の増により収益増を図る。		
12回	12回	・請求漏れ対策や減点対策等に取り組む、収益増を図る。 ・材料費、経費等の節減に努めることにより費用減を図る。 ・収益増加、経費節減策の提案・実行に取り組む。		
100%	95.8%	総合診療医の育成拠点としての研修環境を整備するなど勤務医にとって魅力のある病院づくりへの取組。	・医師にとって魅力ある病院づくりに努めるとともに、三重大学などへの働きかけを行ったものの、目標を達成することができなかった。	・引き続き、医師にとって魅力ある病院づくりや大学などへの働きかけに取り組んでいく必要がある。
100%	100%	育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど看護師にとって魅力のある病院づくりへの取組。	・当院の取組を情報発信したり、看護師が働きやすい職場環境づくりに取り組んだりしたことで目標を達成することができた。	・引き続き、看護師の確保・定着促進に取り組んでいく必要がある。
20件	10件	・地域ケア会議の定期開催により、保健・医療・福祉の連携を図る。 ・「顔の見える会」の活動や講演会等の開催を通じ、地域住民との連携を図る。 ・地域行事等へのボランティア参加を推奨し、地域貢献に努める。	・地域の保健・医療・福祉の多職種による課題検討会の開催などを通じて、地域住民や関係者の意識向上や一体感の醸成を図ったものの、目標を達成することができなかった。	・引き続き、感染防止対策を講じながら、地域住民や関係者の意識向上や一体感の醸成を図っていく必要がある。
4,700人	5,007人	・関係医療機関、保健・福祉機関と連携し、訪問医療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導、訪問栄養指導の件数増を図る。	・在宅医療ニーズの増に加え、保健・福祉機関等との連携などにより、目標を上回るサービスを提供することができた。	・引き続き、在宅療養支援のニーズに応えていく必要がある。
1,000件	740件	・宿日直体制を維持し、救急患者を受け入れる。 ・救急隊との合同勉強会や救急ホットラインの活用等により連携強化に努める。	・救急隊と医師をつなぐ「救急ホットライン」や、診療所・福祉施設と外来師長をつなぐ「外来ホットライン」を活用し取り組んだものの、目標を達成することができなかった。	・引き続き、消防機関や診療所等との密接な連携を図るとともに、24時間365日の救急患者受入体制を維持していく必要がある。
1,400人	1,068人	・住民健診、人間ドック、がん検診をPRするとともに積極的に受け入れる。 ・健康教室等を開催し、健康管理に対する意識啓発を図る。	・住民健診、人間ドック、がん検診を通じた予防医療に取り組んだものの、目標を達成することができなかった。	・引き続き、予防医療の啓発に取り組むとともに、住民健診等を実施する体制を維持していく必要がある。
500人	415人	・指導医による人材育成体制を強化し、臨床研修医、医学生を積極的に受け入れる。	・研修医や医学生を積極的に受け入れたものの、実習の中止等により目標を達成することができなかった。	・引き続き、研修医や医学生を積極的に受け入れていく必要がある。
330人	303人	・看護師等育成に取り組む機関等と連携し、院内実習等を通じ人材育成の支援を行う。	・看護の実習生を積極的に受け入れたものの、実習の中止等により目標を達成することができなかった。	・引き続き、実習生を積極的に受け入れ、実践的な研修を行うとともに、指導者の育成に取り組んでいく必要がある。
3件	3件	・三重県プライマリ・ケアセンターと連携し、プライマリ・ケア研修会の開催を支援する。	・研修会やプライマリ・ケアエキスパートナースの認証などについて、積極的に支援を行った。	・三重県プライマリ・ケアセンターの機能が十分に発揮されるよう、引き続き、積極的に支援を行っていく必要がある。
30件	20件	・カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成する。 ・研究を行うための職場環境を整える。	・職員の研究に対する意欲の醸成に努めたものの、学会の延期等により、目標を達成することができなかった。	・引き続き、研究に対する意欲の醸成に努めるとともに、研究に取り組みやすい職場環境を維持していく必要がある。
100%	100%	・学会、研修等に参加しやすい職場環境を整える。 ・多職種が参加するカンファレンス等を開催する。	・全職員が学会や研修会等に参加することができた。	・引き続き、学会や研修会等に参加しやすい職場環境づくりに取り組んでいく必要がある。
100%	100%	職員の医療安全研修、感染管理研修等への積極的な参加を促す。	・患者や家族の視点に立った医療を安全・安心に提供できるよう、危機管理に対する職員の意識や対応能力の向上に努めた。	・引き続き、感染防止対策など危機管理に対する職員の意識や対応能力の向上を図っていく必要がある。
12回	12回	・一志病院のビジョン達成のため「夢プロジェクト」の活動を通じて、職員の意欲と能力を向上させ、様々な業務改善を積極的に推進する。	・夢プロジェクト内に設けられた各戦略グループの取組状況の報告、確認等を行いつつ、業務改善を積極的に行った。	・引き続き、夢プロジェクトの活動に参加しやすい職場環境づくりに取り組んでいく必要がある。
-	-	・ワーク・ライフ・マネジメントを推進する。 ・職員のモチベーションの維持・向上に努める。	・夢プロジェクトの活動等を通じ、対話の促進やモチベーションの向上を図ることができた。	・すべての職員が様々な取組の充実や改善に貢献することを実感できるよう、引き続き努めていく必要がある。

病院名	三重県病院事業庁						
ビジョン	県立病院として良質な医療を安定的・継続的に提供することで、医療の面から県民と地域の安全・安心を支援します。また、医療従事者にとって魅力のある病院づくりを進めます。						
経営方針	県立病院としての役割や求められるニーズに応じた医療を提供するとともに、病院の健全経営を進めます。また、医師・看護師等の人材確保・定着を図るとともに、病院機能の充実、業務改善等に取り組みます。さらに、風通しの良い職場、思いを共有し、共に実践する組織をめざします。						
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	R元 実績	R2 実績	R3 目標値
顧客の 視点	<p>安定的、継続的な医療の提供</p> <p>地域や県民ニーズに応じた医療の提供</p> <p>良質で安全・安心な医療の提供</p> <p>患者満足度の高い医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●精神科専門医療の提供</li> <li>●家庭医療の実践</li> <li>●地域に必要な医療体制の整備</li> <li>●地域の医療機関等との連携・協力</li> </ul>	安定的・継続的な医療の提供	患者満足度の向上	患者満足度	90.8%	92.4%	95.0%
			県立病院の役割・機能の提供	訪問看護等延べ患者数	9,355人	9,099人	9,700人
			救急医療の充実	救急患者受入件数	1,457人/年	1,031人/年	1,230人/年
			地域の関係機関等との連携強化	関係機関等との連携件数	36件	20件	28件
			医療事故の防止	医療過誤数	0件/年	0件/年	0件/年
			志摩地域における医療提供体制の整備	志摩病院における入院・外来・救急患者数	194.2人/日 296.4人/日 4,633人/年	172.7人/日 254.4人/日 2,994人/年	201.0人/日 301.0人/日 6,348人/年
財務の 視点	<p>県立病院の健全経営</p>	県立病院の健全経営	経常収支均衡 資金収支均衡	経常収支比率 医療収支比率 1日平均入院患者数	101.9% 68.4% 301.4人/日	112.3% 61.2% 259.1人/日	104.0% 65.6% 288.0人/日
				1日平均外来患者数	294.8人/日	253.0人/日	276.0人/日
内部プロセスの 視点	<p>医療スタッフの確保</p> <p>業務改善の推進</p> <p>危機管理の推進とコンプライアンスの確立</p> <p>医師・看護師など医療スタッフの確保・定着</p> <p>病院機能の充実、業務改善、革新</p> <p>危機管理の推進とコンプライアンスの確立</p>	医療スタッフの確保  業務改善の推進  危機管理の推進とコンプライアンスの確立	人材の確保・定着	医師充足率	89.3%	82.9%	100.0%
				看護師充足率	100.0%	100.0%	100.0%
			研修医・看護実習生等の受入	研修医・看護実習生等受入延べ人数	3,093人/年	2,270人/年	3,030人/年
			改善活動の定着	業務改善取組テーマ数	2件	3件	3件
			災害医療体制の構築	災害時の医療支援訓練実施回数	4回/年	4回/年	4回/年
			リスクマネジメントの確立実践	医療安全委員会の開催回数	24回	24回	24回
学習と成長の 視点	<p>風通しの良い職場づくり</p> <p>チーム力を最大にするコミュニケーションの向上</p> <p>一人ひとりの職員の専門能力の向上</p>	風通しの良い職場づくり  一人ひとりの職員の力を伸ばす専門能力の向上	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的回答割合	—	72.2%	—
			コミュニケーションの向上	病院現場との定例的な会議の開催	5回/月	5回/月	5回/月
			専門能力の向上(スキルアップ)	職員アンケート「プロとして成長しているか」の設問での肯定的回答割合	—	69.5%	—
	職員の危機管理意識の向上	危機管理研修等参加率	97.0%	99.6%	95.0%		

R3 実績	アクションプラン	実績評価	次年度への課題
90.6%	・患者アンケートの分析、改善活動 ・医療機関、県民等を対象とした研究会、講演会、セミナー、病院まつり等地域医療の水準向上、開かれた病院運営等の積極的な実施	・このころの医療センターではタスクフォースでの取組、一志病院では衛生設備等改修等院内の環境改善に取り組んだが目標を達成することができなかった。	・引き続き、患者満足度調査を実施しその結果を分析し患者ニーズを把握して、満足度向上に向けた対策を講じていく必要がある。
9,238人	・このころの医療センターにおける地域生活支援機能の充実や一志病院における訪問診療・訪問看護等の在宅療養支援の充実	・このころの医療センターでは目標を達成できなかったものの、一志病院においては地域の在宅医療ニーズの増加に伴い目標を達成することができた。	・このころの医療センターでは引き続き、タスクフォースでの取組を進めるとともに、一志病院においては、限られた医療資源を効率的に活用し在宅医療のニーズに引き続き応えていく必要がある。
918人/年	・救急医療の提供体制の確保	・救急患者の受入れ要請の減により、両病院共に目標を達成できなかった。	・引き続き、関係機関と連携を図りながら救急患者の受入体制を維持し、県立病院としての役割を果たしていく必要がある。
18件	・地域の医療機関や大学、関係機関等との連携・協力関係の取組	・このころの医療センターでは目標を達成したが、一志病院において感染症拡大の影響により、一部の会議(対面方式)を中止したことにより目標を達成することができなかった。	・オンラインツール等も積極的に活用しながら、地域の医療機関や関係機関との連携強化に取り組む必要がある。
0件/年	・事故防止のための取組強化	・医療安全委員会の活動を通じて、意識向上を図り、目標を達成することができた。	・医療事故が起こらないよう、事故防止の啓発等に継続的に取り組んでいく必要がある。
167.9人/日 254.8人/日 3,334人/年	・指定管理者による柔軟かつ迅速な運営のもと、診療機能の回復・充実に努めるとともに、地域のニーズに応じた医療を提供	・入院、外来、救急の患者数はいずれも新型コロナの影響を受けた前年度並みとなり、目標を達成することができなかった。	・コロナ収束後も見据え地域のニーズをふまえた診療機能の充実に向け、引き続き、指定管理者と連携しながら医師の確保に取り組んでいく必要がある。
124.7% 58.0% 224.7人/日 258.6人/日	・2病院の医療収支比率の改善 ・入院患者数の確保に向けた取組 ・外来患者数の確保に向けた取組	・入院患者数については、このころの医療センターにおいて、新型コロナ感染患者受入れのために専用病床を年間をととして確保したことなどにより、患者数が減少したため、目標を達成することができなかった。 ・経常収益については、同感染症に係る国からの交付金を受け入れたことなどにより目標を上回った	・コロナ収束後も平時より新たな感染症に備えた医療体制を構築するため、効率的な病棟運営や病棟再編の検討を進める必要がある。
83.9%	・医師確保(県医療保健部との連携、大学等への医師派遣要請等) ・勤務医にとって魅力や働きがいのある職場環境づくり(医師の研修環境の充実、学会等への参加の柔軟化や良好な住環境の確保等)	・大学医局等への医師派遣要請や、医学生・研修医等の実習受入にあわせて、病院の魅力発信等を行ってきたが、目標を達成することができなかった。	・引き続き、医師にとって魅力のある病院づくりや研修プログラムを通じて、積極的に情報発信を行い医師確保につなげていく必要がある。 ・大学医局等に継続して医師派遣要請を行っていく必要がある。
100.0%	・看護師の確保・定着のための研修資金制度の周知・活用、看護実習や新人看護師への技術支援体制の充実等	・看護師が働きやすい職場環境づくりと積極的な看護実習生の受入を通じて、病院の魅力発信等を行って目標達成に繋げることができた。	・取組を継続し、より有能な看護師の確保につなげていく必要がある。
2,553人/年	・研修医等の受入体制の確立 ・研修や実習の充実 ・研修指導医、看護実習指導者等の育成	・各病院において研修医や医学生、看護学生等の実習を積極的に受け入れてきたが、コロナの影響により実習の一部中止や見送りがあったことなどから目標を達成することができなかった。	・感染対策を徹底し、引き続き研修生や実習生を積極的に受け入れていく必要がある。
3件	・病院運営業務の電子化の推進、Web会議の活用、紙資料・プラスチックごみ削減の3つをテーマに掲げ、業務改善活動を推進	・このころの医療センターで会計自動精算システム導入、外来診察案内表示の電子化を実施。 ・紙資料削減等に努めコピー使用量を前年度比約7%削減した。 ・各病院と実施する会議のオンライン化を推進し、14回/年実施した。	・一志病院において電子カルテを導入し、院内手続きのデジタル化推進、業務効率向上を図る必要がある。 ・カルテの電子化等に伴い、徹底した情報セキュリティ対策に取り組んでいく必要がある。
4回/年	・医療事故や自然災害等を想定した図上訓練の実施等(各病院2回) ・災害支援体制の確立(院内備蓄の整備・充実)	・自然災害や火災発生を想定した訓練を目標どおり実施した。	
24回	・医療安全対策・感染対策の充実、マニュアルの適切な運用・不断の見直し・検討 ・個人情報管理等安全確保のための組織の充実	・各病院において医療安全に関する委員会を定期的に開催した。	・各種研修会や訓練等を計画的に実施し、継続的に災害等リスク発生時における対応力の向上やコンプライアンスの徹底を図っていく必要がある。
6回	・コンプライアンスの確立に向けた取組の実施等(各所属3回)	・各所属において過去の発生事例を題材として発生防止と適切な事後対応等に係る研修会を実施、コンプライアンスの徹底に取り組んだ。	
2回	・指定管理者との連携・調整に係る体制づくり	・志摩病院管理運営協議会や毎月の業務報告書の聴き取り等を通じて、運営状況を把握し、課題等について協議・調整を行った。	・志摩地域の中核病院として、また、県立病院としての役割・機能を担っていくため、引き続き、指定管理者と密接に連携し診療機能を一層充実させる必要がある。
—	・日頃のコミュニケーションや報告・連絡・相談を大事にした明るく風通しの良い職場づくりの推進 ・ワーク・ライフ・マネジメントシート等を活用した対話の実施		・職員満足度の向上を図るため、引き続き、明るく風通しの良い職場づくりやライフ・ワークマネジメントの推進に努めていく必要がある。
5回/月	・現場やコミュニケーションを重視して思いを伝えあい、共有し、共に実践する組織づくり	・病院現場を重視する視点、職員間のコミュニケーションを大切に、共に実践する組織づくりに取り組んだ。	・情報を共有し課題に共に取り組んでいける様、有意義なコミュニケーション機会を創出していく必要がある。
—	・研究・研修環境の整備・充実、研究発表の推進(専門分野での資格取得のための支援、研修体系の整備、研修機会の確保と活かせる環境の整備、研究研修費の確保等)		・引き続き、職員の専門性や意識の向上に取り組んでいく必要がある。
99.8%	・医療安全研修会等の開催	・多くの職員が参加できるよう複数の日程で開催する等の工夫を行い、目標を達成することができた。	・引き続き、より多くの職員が参加できるよう、内容や手法を工夫していく必要がある。

【参考】 令和4年度 こころの医療センター院長マネジメントシート

病院名	こころの医療センター		
ビジョン	県民の皆さんのより良いこころの健康をめざし、精神科疾患があっても地域で安心して暮らせるよう、医療のサービスを提供します。		
経営方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科の医療倫理を遵守し、患者や家族の皆さんの視点に立った良質で満足度の高い医療サービスを提供しながら、健全な病院</li> <li>・政策的医療や専門的医療、災害医療の取組において、県内の精神科医療における中核病院としての役割を担い、県の精神科医療を</li> </ul>		
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)
顧客の 視点		◎重点取組事項	満足度の高い医療の提供
		早期社会復帰の推進	新患者の寛解率の向上
		社会ニーズに応じる精神科専門医療の提供	精神科救急・急性期医療の推進
		社会ニーズに応じる精神科専門医療の提供	地域生活支援体制の充実
財務の 視点		◎重点取組事項	臨床・経営指標に基づいた病院運営の確立
		医業収支改善	医業収支比率の改善
内部プ ロセスの 視点		◎重点取組事項	経営改善の方向性決定
		医療体制の構築	常時急性期患者受入体制の確立 医師の充足 看護師の充足 災害時医療体制の確立に向けた取組
学習と 成長の 視点		◎重点取組事項	人材育成の充実取組
		専門性の向上	専門能力を身につけた職員の増加
		三重県の精神科をリードする取組	精神科医療スタッフの育成
		風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上

運営を進めます。  
リードします。

業績評価指標	R3 実績値	R4 目標値	アクションプラン
患者満足度	87.4%	94.3%	・患者・職員満足度向上/経費削減タスクフォースによる改善の取組
新患者の寛解率	63.8%	60.0%	・早期、急性期医療の充実 ・地域生活支援体制の推進
精神科救急患者受入件数	178件	230件	・精神科救急受入体制の確保
デイケア・ショートケア延べ患者数	9,911人	12,500人	・入院・外来集客強化タスクフォースによる改善の取組
訪問看護延べ患者数	4,231人	5,000人	・入院・外来集客強化タスクフォースによる改善の取組
入院後1年以内の患者退院率	100.0%	95.0%	・地域の関係施設との連携及び日中活動支援等の充実
障害福祉サービス事業所等との連携取組件数	8件	9件	・地域連携ミーティングの開催及び協働事業の開催
医療機関訪問件数	203件	200件	・地域医療機関への訪問 ・入院・外来集客強化タスクフォースによる改善の取組
精神科早期介入対応件数	235件	200件	・早期介入拠点(YMSC-MIE)の充実、ケースマネジメント体制の確立
こころしっとこセミナー開催件数	35件	35件	・精神科医療取組の広報・啓発等
臨床・経営指標の追加・充実	充実	充実	・臨床・経営指標の追加等、データ分析
医業収支比率	55.2%	62.8%	・精神科専門治療の充実
経常収支比率	127.5%	101.6%	・精神科特定入院料の算定 ・収支改善に向けた病院機能の検討
アルコール依存症入院患者数	19.4人/日	30人/日	・病棟機能の明確化と病棟間の連携
認知症入院患者数	26.4人/日	40人/日	・飲酒運転違反者に対する診察
1日平均入院患者数	189.9人/日	230人/日	・認知症相談、啓発研修の実施
1日平均外来患者数	187.5人/日	200人/日	・他医療機関、施設との連携 ・依存症患者の治療
病棟再編の具体案の検討・実施	検討・実施	検討・実施	病棟再編の院内会議での検討、東1病棟改修の設計実施
措置鑑定対応件数	77件	50件	県健康推進課・保健所等との連携、院内救急体制整備
医師充足率	79.8%	100%	研修や資格取得へのバックアップ体制を強化し医師に魅力ある病院づくりの取組
看護師充足率	100%	100%	育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど魅力のある病院づくりへの取組
BCPに基づく図上演習・訓練	開催	開催	震災、感染症に係るBCPマニュアルの実効性を高める取組
危機管理研修等参加率	99.7%	94%	医療安全研修の複数回実施、未受講者への受講勧奨
倫理委員会(研修)開催数	2回	2回	・職員の倫理意識向上のための研修の実施 ・職員表彰制度の継続実施
人材育成のための研修開催数	6回	5回	・職員のスキルアップのための体系的な院内研修の実施 ・心理教育プログラム実践強化タスクフォースによる改善の取組
研修医・看護実習等受入延べ人数	1,835人	2,200人	・院内受入体制の整備 ・研修プログラムの見直し、充実 ・看護大学との連携による臨床能力の向上
職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	—	73.0%	患者・職員満足度向上/経費削減タスクフォースによる改善の取組

【参考】 令和4年度 一志病院長マネジメントシート

病院名	一志病院		
ビジョン	安心してこの地域で生活し続けられる医療を提供し、全国の医療過疎を解決する病院のモデルになります。		
経営方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆるニーズに対応するプライマリ・ケアを実践します。</li> <li>プライマリ・ケアを担う人材を育成します。</li> <li>プライマリ・ケアに関するエビデンスを創出し</li> <li>県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院を目指します。</li> <li>職員の意欲と能力の向上に努めます。</li> <li>継続的な医療の提供のために経営の健全化に</li> </ul>		
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)
顧客の視点		<p>プライマリ・ケアの実践 (全人的な医療サービスの提供)</p> <p>県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院 (顧客満足度の高い医療の実践)</p>	<p>かかりつけ患者の増加</p> <p>入院患者の増加</p> <p>県内医療過疎地域への貢献</p> <p>患者及び家族の満足度向上</p>
財務の視点		経営の健全化	<p>収支の改善</p> <p>収益の確保</p>
内部プロセスの視点		<p>地域に最適な医療体制の構築</p> <p>総合診療医を中心とした地域医療</p> <p>プライマリ・ケアを担う人材の育成 (地域医療を担う人材の教育)</p> <p>プライマリ・ケアに関するエビデンスの創出 (実証的かつ先進的な研究の実施)</p>	<p>医師の充足</p> <p>看護師の充足</p> <p>関係機関・地域住民との連携強化</p> <p>在宅療養の充実</p> <p>救急医療体制の確立</p> <p>予防医療の実践</p> <p>臨床研修医・医学生の受入れ体制の充実</p> <p>看護師等育成の支援</p> <p>プライマリ・ケアセンターへの支援</p> <p>家庭医療等に関する研究の実施</p>
学習と成長の視点		<p>職員の意欲と能力の向上 (業務改善に向けた取組)</p> <p>風通しの良い職場づくり</p>	<p>医療従事者の能力向上</p> <p>危機管理対策の向上</p> <p>業務改善の推進</p> <p>職員満足度の向上</p>

ます。  
取り組みます。

業績評価指標	R3 実績値	R4 目標値	アクションプラン
1日平均外来患者数	71.1人/日	72.0人/日	・感染防止対策を講じながら、総合診療医を中心とした外来診療体制の充実を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。
1日平均入院患者数	34.8人/日	36.0人/日	・診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。 ・病床状況、平均在院日数等の情報を関係セクションで共有し、目標達成に向けた対策を講ずる。
医療過疎地域等への支援件数	3件	5件	・へき地医療拠点病院として、診療圏外に所在する診療所へ代診医の派遣を行う。
患者満足度	95.0%	96.6%	・患者様アンケートを通じて患者様のニーズを把握し、サービス改善に取り組む。 ・接遇研修を実施し、職員の接遇能力の向上を図る。 ・電子カルテシステムを導入し、待ち時間の短縮や医療サービスの向上を図る。
経常収支比率	117.3%	106.3%	・入院、外来患者数増や単価増により収益増を図る。 ・予防医療受診者の増により収益増を図る。
医業収支比率	74.0%	70.0%	・請求漏れ対策や減点対策等に取り組み、収益増を図る。 ・材料費、経費等の節減に努めることにより費用減を図る。 ・収益増加、経費節減策の提案・実行に取り組む。
診療報酬検討会開催回数	12回	12回	
医師充足率	95.8%	100%	・総合診療医の育成拠点としての研修環境を整備するなど勤務医にとって魅力のある病院づくりに取り組む。
看護師充足率	100%	100%	・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど看護師にとって魅力のある病院づくりに取り組む。
多職種連携による取組件数	10件	15件	・保健・医療・福祉連携会議の開催等により、関係機関と連携した取組を図る。 ・「顔の見える会」の活動等の取組を通じ、地域住民との連携を図る。 ・地域行事等へのボランティア参加を推奨し、地域貢献に努める。
訪問診療、訪問看護等延べ患者数	5,007人	4,800人	・関係医療機関、保健・福祉機関と連携し、訪問医療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導、訪問栄養指導の件数増を図る。
救急患者受入件数 (救急車搬送患者を含む)	740件	900件	・宿日直体制を維持し、救急患者を受け入れる。 ・救急隊との合同勉強会や救急ホットラインの活用等により連携強化に努める。
住民健診、人間ドック、がん検診受検者数	1,068人	1,400人	・住民健診、人間ドック、がん検診をPRするとともに積極的に受け入れる。 ・健康教室等の予防医療に係る取組を通じ、健康管理に対する意識啓発を図る。
臨床研修医・医学生受入延べ人数	415人	500人	・指導医による人材育成体制を強化し、臨床研修医、医学生を積極的に受け入れる。
看護実習生等受入延べ人数	303人	330人	・看護師等育成に取り組む機関等と連携し、院内実習等を通じ人材育成の支援を行う。
プライマリ・ケア研修会開催件数	3件	3件	・三重県プライマリ・ケアセンターと連携し、プライマリ・ケア研修会の開催を支援する。
学会発表・論文発表件数	20件	30件	・カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成する。 ・研究を行うための職場環境を整える。
学会、研修、カンファレンス等の参加率	100%	100%	・学会、研修等に参加しやすい職場環境を整える。 ・多職種が参加するカンファレンス等を開催する。
危機管理研修等の参加率	100%	100%	・職員の医療安全研修、感染管理研修等への積極的な参加を促す。
「夢プロジェクト」開催回数	12回	12回	・一志病院のビジョン達成のため「夢プロジェクト」の活動を通じて、職員の意欲と能力を向上させ、様々な業務改善を積極的に推進する。
職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	—	75.0%	・ワーク・ライフ・マネジメントを推進する。 ・職員のモチベーションの維持・向上に努める。

【参考】 令和4年度 病院事業庁長マネジメントシート

病院名	三重県病院事業庁			
ビジョン	県立病院として良質な医療を安定的・継続的に提供することで、医療の面から県民と地域の安全・安心を支援します。また、医療従事者にとって魅力のある病院づくりを進めます。			
経営方針	県立病院としての役割や求められるニーズに応じた医療を提供するとともに、病院の健全経営を進めます。また、医師・看護師等の人材確保・定着を図るとともに、病院機能の充実、業務改善等に取り組みます。さらに、風通しの良い職場、思いを共有し、共に実践する組織をめざします。			
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標
顧客の視点	<p>安定的、継続的な医療の提供</p> <p>地域や県民ニーズに応じた医療の提供</p> <p>良質で安全・安心な医療の提供</p> <p>患者満足度の高い医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●精神科専門医療の提供</li> <li>●家庭医療の実践</li> <li>●地域に必要な医療体制の整備</li> <li>●地域の医療機関等との連携・協力</li> </ul>	安定的・継続的な医療の提供	患者満足度の向上 県立病院の役割・機能の提供 救急医療の充実 地域の関係機関等との連携強化 医療事故の防止 志摩地域における医療提供体制の整備	患者満足度 訪問看護等延べ患者数 救急患者受入件数 関係機関等との連携件数 医療過誤数 志摩病院における入院・外来・救急患者数
財務の視点	<p>県立病院の健全経営</p>	県立病院の健全経営	経常収支均衡	経常収支比率 医業収支比率 1日平均入院患者数 1日平均外来患者数
内部プロセスの視点	<p>医師・看護師など医療スタッフの確保・定着</p> <p>病院機能の充実、業務改善、革新</p> <p>危機管理の推進とコンプライアンスの確立</p>	医療スタッフの確保 業務改善の推進 危機管理の推進とコンプライアンスの確立	人材の確保・定着 研修医・看護実習生等の受入れ 改善活動の定着 災害医療体制の構築 リスクマネジメントの確立実践 コンプライアンスの確立実践	医師充足率 看護師充足率 研修医・看護実習生等受入延べ人数 業務改善取組テーマ数 災害時の医療支援訓練実施回数 医療安全委員会の開催回数 研修会等の実施
学習と成長の視点	<p>風通しの良い職場づくり</p> <p>チーム力を最大にするコミュニケーションの向上</p> <p>一人ひとりの職員の専門能力の向上</p>	風通しの良い職場づくり 一人ひとりの職員の力を伸ばす専門能力の向上	職員満足度の向上 コミュニケーションの向上 専門能力の向上(スキルアップ) 職員の危機管理意識の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的回答割合 病院現場との定例的な会議の開催 職員アンケート「プロとして成長しているか」の設問での肯定的回答割合 危機管理研修等参加率

R3 実績	R4 目標値	アクションプラン
90.6%	95.0%	・患者アンケートの分析、改善活動 ・医療機関、県民等を対象とした研究会、講演会、セミナー、病院まつり等地域医療の水準向上、開かれた病院運営等の積極的な実施
9,238人	9,800人	・こころの医療センターにおける地域生活支援機能の充実や一志病院における訪問診療・訪問看護等の在宅療養支援の充実 ※こころ:5,000人、一志:4,800人
918人/年	1,130件/年	・救急医療の提供体制の確保 ※こころ:230人、一志:900人
18件	24件	・地域の医療機関や大学、関係機関等との連携・協力関係の取組 ※こころ:9件、一志:15件
0件/年	0件/年	・事故防止のための取組
167.9人/日 254.8人/日 3,334人/年	187.0人/日 291.0人/日 4,818人/年	・指定管理者による柔軟かつ迅速な運営のもと、診療機能の回復・充実を図るとともに、地域のニーズに応じた医療を提供
124.7% 58.0% 224.7人/日 258.6人/日	102.6% 65.6% 288.0人/日 276.0人/日	・2病院の医業収支比率の改善 ・入院患者数の確保に向けた取組 ・外来患者数の確保に向けた取組
83.9%	100.0%	・医師確保(県医療保健部との連携、大学等への医師派遣要請等) ・勤務医にとって魅力や働きがいのある職場環境づくり(医師の研修環境の充実、学会等への参加の柔軟化や良好な住環境の確保等)
100.0%	100.0%	・看護師の確保・定着のための修学資金制度の周知・活用、看護実習や新人看護師への技術支援体制の充実等
2,553人/年	3,030人/年	・研修医等の受入体制の確保 ・研修や実習の充実 ・研修指導医、看護実習指導者等の育成
3件	3件	・病院運営業務の電子化の推進、Web会議の活用、紙資料・プラスチックごみ削減の3つをテーマに掲げ、業務改善活動を推進
4回/年	4回/年	・医療事故や自然災害等を想定した図上訓練の実施等(各病院2回) ・災害支援体制の確立(院内備蓄の整備・充実)
24回	24回	・医療安全対策・感染対策の充実、マニュアルの適切な運用・不断の見直し・検討 ・個人情報管理等安全確保のための組織の充実
6回	9回	・コンプライアンスの確立に向けた取組の実施等(各所属3回)
2回	2回	・指定管理者との連携・調整に係る体制づくり
—	67.0%	・日頃のコミュニケーションや報告・連絡・相談を大事にした明るく風通しの良い職場づくりの推進 ・ワーク・ライフ・マネジメントシート等を活用した対話の実施
5回/月	5回/月	・現場やコミュニケーションを重視して思いを伝えあい、共有し、共に実践する組織づくり
—	66.0%	・研究・研修環境の整備・充実、研究発表の推進(専門分野での資格取得のための支援、研修体系の整備、研修機会の確保と活かせる環境の整備、研究研修費の確保等)
99.8%	95.0%	・医療安全研修会等の開催

## 【参考】マネジメントシートの構成

「ビジョン」と「経営方針」を策定し、これを達成するための戦略目標や業績評価指標を、「バランス・スコアカード（BSC）」の考え方にに基づき、以下の4つの視点で分類し構成しています。

